



## 講義形式の授業で対話を促す手法(1)

### ～授業シートを活用してみよう～

鹿児島大学 FD 委員会 FD ガイド WG

【発行/2017年9月】

アクティブ・ラーニングが、平成29年3月公示の新学習指導要領に盛り込まれました。「主体的・対話的で深い学び」という表現が採用されています。「対話的」の部分には理解のヒントがありそうです。

講義、演習、実習、実験、実技と、大学の授業形態には5つの定義が与えられていますが、対話的でなくなりがちなのは講義です。それでもなお、講義において効率的・効果的に対話を実現している事例がありますので、ご紹介します。教員の負担増なしとは言えませんが、すぐにでも取り組める事例です。

### 教員と受講生との対話を促進する授業シート

岡山大学や富山大学では、シャトルカード（画像1）と呼ばれる授業シートが全学で用意されています。考案者は橋本勝教授（富山大学）で、A4サイズ両面印刷です。

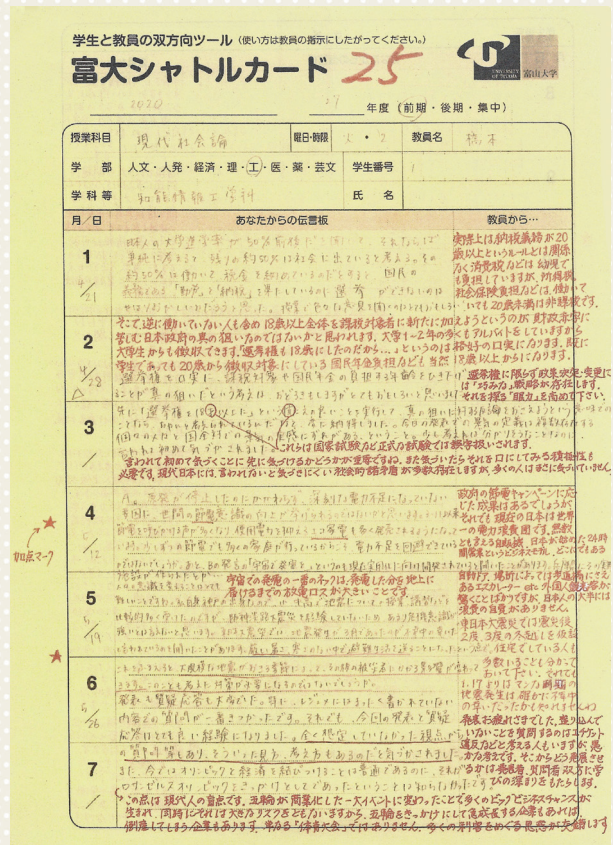
「あなたからの伝言板」と「教員から…」の欄が用意されています。橋本教授はびっしりとコメントを付して返却されていますが、「ここまでやらないで下さい、私の特殊能力です」と公言されています。

同教授はライト・アクティブラーニングの主張者として知られており、橋本メソッドという競争的グループ発表形式での授業を提唱されています。受講生の積極的受講態度、授業時間外学習時間の多さ、発言力、目の輝き、楽しそうな様子などが凄いと、注目を集めています。シャトルカードは橋本メソッドを支えるツールであると考えられ、教員と受講生との対話を促進しています。

本学でも、ミニッツ・ペーパーや授業シートを活用されている、あるいは検討されている先生は多いのではないでしょうか。ここでは授業シートの事例をご覧ください。なお、授業シートの活用は、本学のアクティブ・ラーニングの定義にしたがえば、「学習の振り返り」に相当します。

画像2は、初年次セミナーで活用されており、実物はA3サイズ両面印刷です（画像はページ順を加工してあります）。授業担当教員が独自に用意したシートで、出席確認が意図されている他、「本日の作業内容、感想、質問など」を記入する欄が用意されています。余白には教員によるコメント書き込みの余裕があります。受講生の名前が覚えやすい、理解度が伝わってくるのできめ細やかな対応ができる、教員も手抜きができないとの自覚につながるなど、「授業シートの活用が授業に良いことをもたらしている」との実感があるということでした。

画像3は、リアクションペーパーと名付けられたシートで、A4サイズです。1回の授業で1枚のシートを使用します。授業の度に受講生が振り返りを行い、次回授業冒頭で提出するシステムとなっています。「担当教員へのコメントや質問」を記入する欄が用意されている他、学習目標が明記されており、受講生が到達度を自己評価できる工夫がなされています。活用した書籍情報も蓄積できます。



橋本教授の講演資料より

画像1 授業シート例1 (他大学の講義)

11号

12号

13号

14号

15号

16号

17号

18号

19号

20号



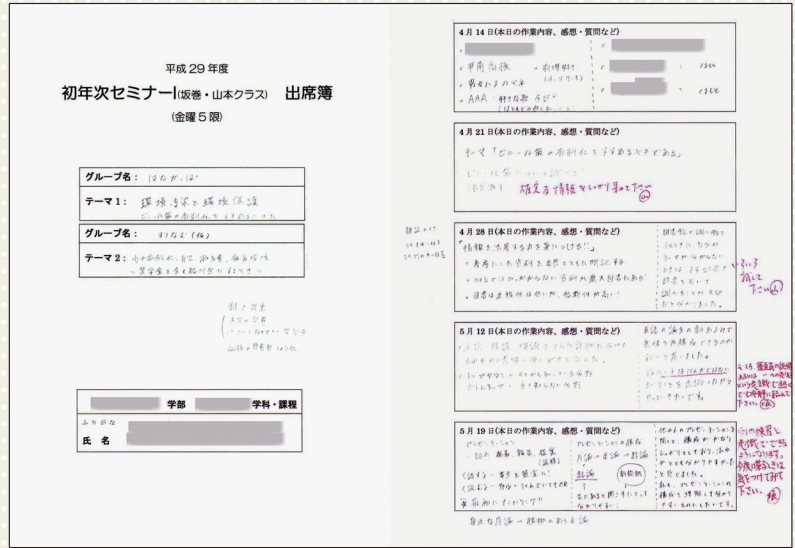
# 講義形式の授業で対話を促す手法(1)

## ～授業シートを活用してみよう～

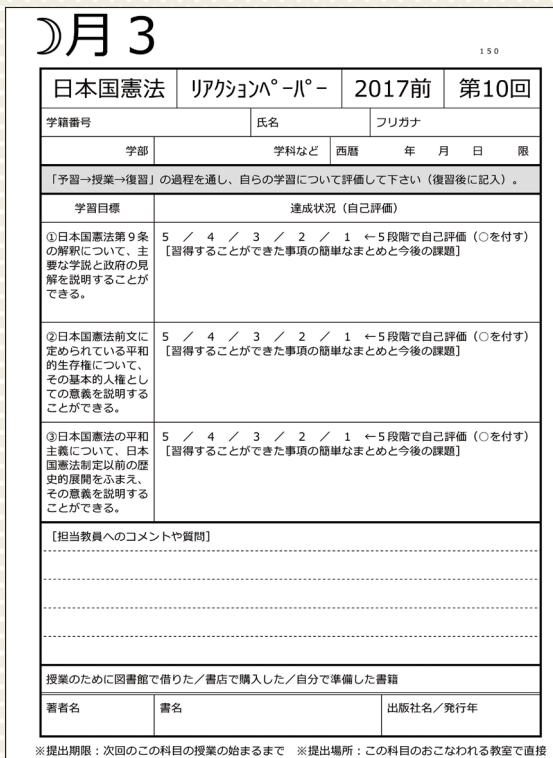


画像4は、A4サイズ両面印刷の授業シートです。学習目標の到達度を自己評価する欄(塗りつぶしていく5つの□)、授業内容の記録、キーワードを蓄積するようになっていきます。このシートを利用して3回の小レポートを課しているのですが、その評点も書かれています。

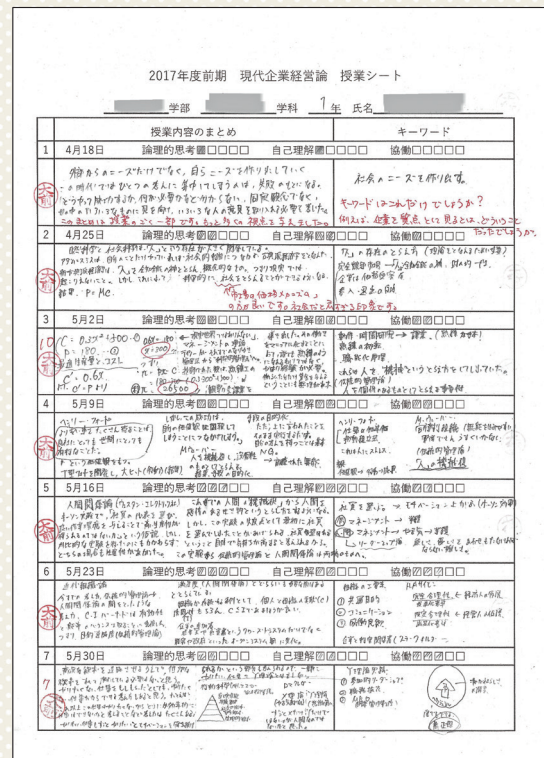
受講生にとって記入は面倒くさそうだと感じられるかもしれませんが、意外にも授業アンケートでは好評で、「毎回の授業をまとめ、蓄積するやり方は、凄いいと思った」とのコメントが寄せられています。質問に来る受講生も多くなったようです。



画像2 授業シート例2 (初年次セミナー)



画像3 授業シート例3 (講義)



画像4 授業シート例4 (講義)

### 授業シート 活用の際の ポイント

- ・e ポートフォリオも悪くないが、教員と受講生とでシートのやりとりをすること自体に意味がある、と考える教員に適した手法です。
- ・授業シートの提出と返却を繰り返すに当たり、わずかでもよいので評価を返す努力が求められます。「自分のことを見てくれている」との感覚が、受講生のモチベーションを高めます。
- ・大教室での提出・返却を考えると、学部・学科、50音順等で分けておくと効率的です。
- ・授業中に記入してもらう場合、10分程度の時間を確保すればよいでしょう。
- ・受講人数が多い講義では、教員の負担が大きくなる可能性があります。省力化の工夫も大切です。